

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年 2月 12日

【評価実施概要】

事業所番号	2272301066
法人名	有限会社 吉原介護センター
事業所名	グループホーム 陽気
所在地 (電話番号)	富士市伝法657-1 (0545-73-1010)
評価機関名	セリオコーポレーション株式会社
所在地	静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成21年 1月10日

【情報提供票より】(平成20年12月23日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 9月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 6人, 非常勤 3人, 常勤換算	5人

(2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての 1階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	-
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,350 円		

(4) 利用者の概要(平成20年12月23日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 89.4 歳	最低	84 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	鷹岡病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、東名高速道路富士インター近く、幹線道路にも近い住宅街に位置しており、近隣には自然の緑も多く散歩道も楽しみである。建物はデイサービス・センター、高齢者専用賃貸住宅を併設しており、地域の高齢者が集う良好な環境となっている。管理者、職員はその環境を生かし、広く地域に開放されたホームとして地域住民との交流も盛んである。利用者が積極的に家事を担い、明るく笑顔で過ごしている姿が印象的であった。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果は職員全員で検討されていた。玄関周りの花壇には季節の草花が植えられ訪問しやすい雰囲気を作っている。また食事の献立は地域包括支援センターの栄養士に相談できるよう配慮される等、サービスの質の向上に生かされていた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は職員の意見を聞きながら管理者と介護支援専門員が作成している。職員全員が外部評価を積極的に受け入れ、サービスの質の向上に生かす姿勢を持っている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は3ヶ月に1回定期的に開催されており、地域の民生委員や町内会長、市の介護保険課職員等の参加が得られている。またホームからは利用者や家族、管理者、職員が出席し活発に意見が交わされている。ホームからは現況報告や災害時における地域の協力の要請が出され、地域や行政からは質問や地域のイベント情報等が提供されている。会議での意見は迅速に職員に伝達され、業務に生かされている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の訪問を促し意見を聴くため、利用料の支払いはホームで受けている。また管理者、職員は家族等が意見を言いやすい雰囲気を大切にしている。意見は朝晩の申し送りにて迅速に職員に伝達され、業務に反映するよう配慮されている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>事業所として自治会に加入しており、地域の祭事、行事や防災訓練にも協力している。また近隣中学の福祉体験や地域のボランティアも積極的に受け入れ、地域住民との交流に努めており、利用者の散歩時には住民との明るい挨拶が交わされている。地域住民を対象とした、ホーム主催の認知症講座も企画している。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設後、職員と利用者が共同で作上げたホームの理念を大切にしている。理念は共有空間に掲示され、利用者や家族、職員が日々共有するための工夫がされているが、事業所の理念の中に「地域との交流」が盛り込まれていない。	○	契約書や運営規定等の改定時には、地域密着型サービスの理念である「地域との交流」を盛り込み、地域コミュニティの育成に貢献する事が望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念は「生活指針」として利用者、職員が日々共有している。またカンファレンスや申し送りにおいても常に確認され、実践のための努力を惜しまない姿勢を持っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所として自治会に加入しており、地域の祭事、行事や防災訓練にも協力している。また近隣中学の福祉体験や地域のボランティアも積極的に受け入れ、地域住民との交流に努めており、利用者の散歩時には住民との明るい挨拶が交わされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果は職員全員で検討され、サービスの質の向上に生かされていた。今回の自己評価は職員の意見を聞きながら管理者と介護支援専門員が作成している。外部評価をサービスの改善に生かす姿勢が見られた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3ヶ月に1回定期的に開催されており、地域の民生委員や町内会長、市の介護保険課職員等の参加が得られている。またホームからは利用者や家族、管理者、職員が出席し活発に意見が交わされている。会議での意見は迅速に職員に伝達され、業務に生かされている。	○	定期的な運営推進会議が開催され、内容的にも充実しているが、今後は2ヶ月に1回の開催に向けた努力が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は活発な地域福祉活動を実施しており行政との関係が良い。積極的に市の窓口に出かけ、担当者との交流や意見交換をサービスの質の向上に生かすよう努めている。また介護相談員の訪問を月2回ペースで受け入れている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	季刊「かすみ草便り」にて行事や生活の様子を写真入りで報告しており、家族の評価も高い。また毎月1回は計画作成担当者が手書きした個別の報告書も送付している。受診や体調の変化については電話等にて迅速な連絡を心がけており、記録も整備されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問を促し意見を聴くため、利用料の支払いはホームで受けている。また管理者、職員は家族等が意見を言いやすい雰囲気大切にしている。意見は朝晩の申し送りにて迅速に職員に伝達され業務に反映するよう配慮されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	一時期職員の退職、異動が続き、やや混乱したが現在は落ち着いている。管理者、介護支援専門員は現場での混乱や利用者の心理的ダメージを最小限に抑える努力を惜しまず、配慮や工夫を重ねており、利用者、家族の信頼も得ている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人規定の採用時研修、継続研修、また外部研修が充実している。外部研修を受講した職員によるホームでの伝達研修も実施されていた。新人職員がホームで働きながら学ぶシステムもあり、職員の学習意欲も高い。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡会の研修や交流会に参加している。また職員の交換交流も実施しており、職員の意欲向上に向けた取組みとなっている。他のホームでの業務体験はホーム内研修にて伝達され、サービスの質の向上に生かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	申し込み後、要望があれば職員が利用者宅に出向いて説明をしている。利用前には見学を重ね、納得した上で利用を心がけている。利用者との食事や、宿泊体験にも対応しており、馴染みながらの利用について配慮されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は各々の能力を生かした役割を分担し、食事の準備や片付け、掃除等の家事を担っている。職員と利用者が互いに気遣い、支えあいながら賑やかに過ごす姿は、本当の家族のように笑顔に溢れた暖かい雰囲気であった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員と利用者が話し合う「陽気の会」にて、希望する事、困っている事等、一人ひとりの意向を具体的に把握し対応を検討している。月2回介護相談員の訪問も受け入れており、利用者との会話から思いを引き出し、利用者本位の生活が出来るように支援している。		
]					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の生活の中での気付きやカンファレンスでの意見、業務日誌などの記録を基に、各々の利用者に対応しい具体的な介護計画を作成している。介護計画には利用者や家族の要望が的確に反映されていた。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	通常の介護計画は3ヶ月ごとに見直されている。心身の状態に変化が生じた場合にはその都度見直しを行い、常に現状に即した介護計画となるよう配慮されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医への通院支援や外出支援等柔軟に対応している。また併設事業所との交流が盛んに実施されていて、活動的な生活について配慮されている。管理者はホームのもつ機能を活かした取り組みとして、地域住民を対象としたホーム主催の認知症講座も企画している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の体調や要望に合わせて、かかりつけ医への受診支援をしている。また近隣内科医への受診や往診も可能となっている。家族と協力しながら歯科、耳鼻科等の受診支援も実施していて適切な医療を受けられる体制を持っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化への対応については、入居時に本人や家族と話し合い「確認同意書」を交わしている。職員はカンファレンスにてターミナルケアについての検討や研修を重ねており、今後の支援体制について積極的な姿勢が見られた。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の今までの暮らし方、生き方を尊重しながら、さりげないトイレ誘導を行なう等、一人ひとりの状態にあわせてプライバシーに配慮した対応をしている。記録書類は施錠出来る事務室に保管され個人情報が守られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食時間は本人の希望に合わせている。日課は本人の希望を取り入れ、散歩や参拝、体操、レクリエーション等自由に参加出来るよう配慮している。利用者は懐かしい歌を唄い、折り紙や談笑を楽しむ等、各々のペースで過ごしている。買い物や美容院等個別の外出も支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は食事の盛り付け、配膳、テーブル拭き等を職員と共に楽しそうに行い、同じテーブルで食事をしている。戸外でのバーベキューやデイサービスの利用者とのバイキング、外食等、食事を楽しむための様々な取り組みがなされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に合わせ、午前と午後どちらでも希望する時間に入浴出来るよう配慮している。また一番風呂等入浴の順番にも希望を取り入れている。二日に一度の入浴を心がけているが、入浴を好まない利用者には清拭や足浴等柔軟な対応を実施している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の得意な事や趣味を把握し、活躍の場を提供している。利用者は食事の準備や片付けを担い、歌や習字、折り紙等の趣味活動、季節の飾りつけや掃除などを自分の役目として行なっている。地域のボランティアによるレクリエーションも良い気晴らしとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や本人の気分、希望に応じて、近くの神社や公園に散歩に出かけることを日課としている。また美容院や買い物を楽しむ等、外出の機会が多く、戸外での気分転換や活動意欲を誘発している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者、職員は日中鍵をかけないケアを実践しており、利用者の動向を十分に把握している。束縛せず見守ることを心がけ、その人に合わせた対応をしており、利用者や家族からの評価も高い。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て定期的に防災、避難訓練を実施している。地域住民に災害時の協力への働きかけも行い、地域の防災訓練にも参加している。非常食や飲料水の備蓄もあり、職員の防災に対する意識は高く、夜間を想定しての避難訓練も行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の身体状況や好みに合わせ、刻み食等の調理方法にも配慮している。職員は共に食事を摂りながら、声かけや促し等の支援をしている。毎食後、10時、おやつ時、就寝前には水分摂取の支援を実施しているが、水分摂取量の記録がされていない。食事摂取量は記録されている。	○	利用者の健康管理の観点から、体調不良時に限らず毎日の水分摂取量を記録する事が期待される。また食事摂取量についても主食、副食に分けての記録が望ましい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や居間の壁には、職員が描いた利用者の似顔絵や誕生日会の写真、利用者の創作品が飾られている。また時計やカレンダーは見やすい場所にあり、利用者への良い刺激となっている。居間にはテーブルセットやソファが置かれ、利用者がゆったりと過ごしていた。手作りが温かい家庭的な雰囲気を醸し出している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は日当たりのよい明るい居室にて、使い慣れた家具や寝具、生活用品、大切な家族の写真に囲まれ、その人らしい生活を送っている。好みや希望に応じてベットまたは布団での就寝を選択することができる。各居室の入り口には、利用者の作成した創作物が飾られ、表札代わりとなっていた。		